



# コミュニティプラットフォーム あだちの果たす役割と機能

地域共生社会を実現する  
コミュニティプラットフォームづくり

1

## 実施背景



障害者の支援ニーズが多様化

事業所単独の支援では不十分

地域資源や多職種との連携が必要



## 実施目的

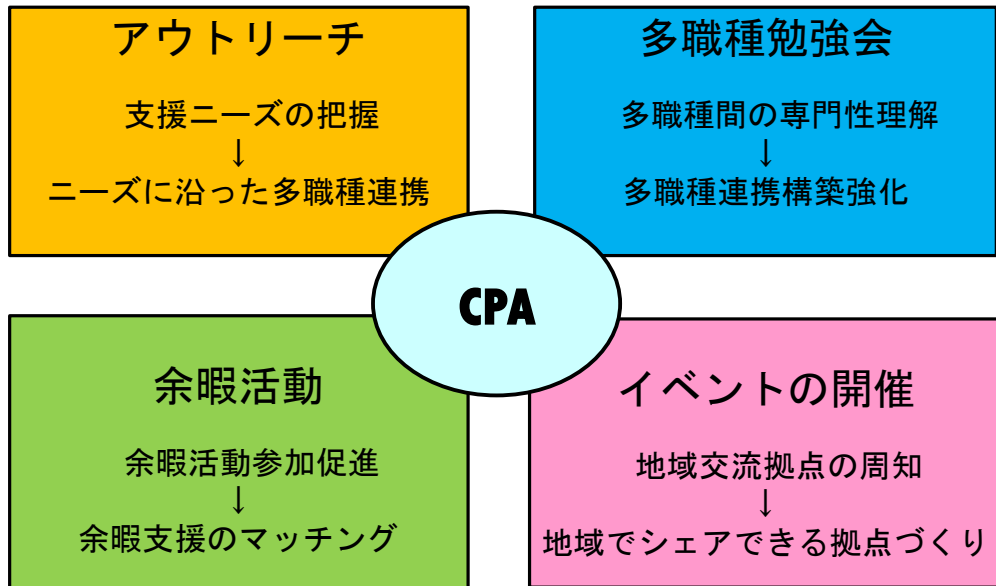


地域連携と多職種連携を推進する新たな拠点



地域独自の共生サービスを実現する！

## CPAが取り組む4つのアクション



## 拠点の設備について



動画の撮影・編集やオンライン会議に対応できるよう、機材を整えました。

## 情報発信について



<http://cpa-japan.org/>

多職種勉強会、余暇活動、イベントなどの情報を発信するためのオンラインプラットフォームを作りました

## 運営協議会



地域で活動するリーダーや福祉各分野の専門家を中心にメンバー構成、地域と連携したCPAの運営について協議



## アウトリーチ



当初は生活上のお困りごとを訪問調査予定

コロナで中止→計画変更

①就労系施設の利用者を対象に余暇活動のニーズ調査

②区内障がい者施設の支援ニーズ調査

③協議会や行政から地域ニーズの聞き取り

今後のアウトリーチへの展開

## 多職種勉強会



障害者福祉について

福祉、医療、教育など様々な分野に従事する  
 専門家を講師に招き、専門知識を共有

コミュニティプラット  
 フォームあだち(CPA)  
 多職種勉強会  
 第1回目

障害者福祉について

0:13 / 48:25 スクロールして詳細を表示

## 余暇活動



地域で行われている余暇活動の現場を順次施設利用者が訪問、その様子をWEB、youtube上で紹介



## イベント



地域住民向けイベントをCPAの拠点でゲストを招いて開催、その様子をWEB、youtube上で紹介



## 見えてきた課題①



### 通信機器の活用促進

通信機器の活用が苦手な方、インフラがなく活用できない方との情報共有についての検討

### 対応策

CPA内での通信機器活用講座の実施や、地域施設の協力の下で施設がHUB（通信拠点）となり活用促進につなげる

## 見えてきた課題②



### 地域住民との連携

CPAが地域拠点として機能していくためには、地域住民との密な連携が必要

### 対応策

CPAの機能を活用し、オンラインでまちや人のPRしていく中で関係づくりを行いながら連携構築を目指す

## 新型コロナの影響



イベントや余暇活動が減少  
 商店（飲食業）の売りが減少  
 障がい者施設自主製品の売上が減少  
 買い物に困っている人が増加

## 本年度取り組むアクション



### アウトリーチ

買い物に困っている  
 住民に移動販売。  
 施設製品や近隣商店  
 の食材等を仕入れて  
 販売、販路拡大と工  
 賃アップを図る。



### 多職種勉強会



支援従事者向けの  
 実用的なコンテン  
 ツの提供。  
 オンラインセミナー  
 の配信ニーズに対  
 応するための出張  
 撮影。

CPA

### 余暇活動

アンケートの結果、  
 興味の多かった音楽  
 活動やスポーツ活動  
 を紹介。所属団体と  
 のコーディネート  
 を行い参加を促進。



### イベントの開催



アンケート結果に  
 基づきオンラインイ  
 ベントを開催。  
 事業所間をオンラ  
 インでつなぎ、利用  
 者へ多種多様なイ  
 ベントを提供。



コミュニティプラットフォームあだち  
の果たす役割と機能

リアルとオンラインを融合させた  
コミュニティづくり

**地域共生社会の実現**

